

その34 禁野

(平成12年8月1日号—第208号)

京阪電車枚方市駅から北東へ500メートルほど進むと天野川に至ります。左岸の低地と右岸の丘陵地一帯が今回ご紹介する禁野[きんや]地区(禁野村)です。

辞書などによると「禁野」とは、天皇の狩場と定め、私人の狩猟を許さなかった所と説明しています。その名が示すとおり、本市においても、平安から鎌倉時代にかけて、皇族の狩場となっていたようです。



59 禁野車塚古墳
(宮之阪5丁目)

また、この地には、国の史跡に指定されている禁野車塚古墳があります。この古墳は、全体の長さが110メートルにも及ぶ大規模な前方後円墳です。この地域が天野川と淀川が合流する地点に近い水上交通の要所であり、肥沃[ひよく]な農耕地であったことも考えると、被葬者はこの一帯を治める豪族の長であったのでしょうか。

ところで、禁野と聞いて、禁野火薬庫の爆発事故を思い出される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。近代におけ

る禁野は、まさに軍事色の強い地域でした。ときに明治27年(1894)、日清戦争が起こると、陸軍は軍備拡張の一環として禁野火薬庫の設置を決定しました。当時は舟運が重要な役割を果たしており、宇治火薬製造所と大阪砲兵工廠[こうしょう]との間を結ぶ淀川流域で火薬庫に適当な用地として、禁野に白羽の矢が立ったのです。



60 禁野火薬庫土塁
(上野2丁目)

禁野火薬庫は明治29年(1896)に完成しましたが、その後、明治42年(1909)に爆発を起こし、民家の倒壊など大きな被害を出しました。しかし、危険な状況を危惧する周辺住民の訴えとは裏腹に、その後も拡張が行われ、昭和8年(1933)には43ヘクタール(13万坪)もの大火薬庫となりました。そんな禁野火薬庫が、昭和14年(1939)、再び大爆発を起こします。この爆発は、前回の爆発事故をはるかに上回る死者100名弱^{*1}、負傷者600名を超す大惨事になりました。爆発当時の空は真っ赤に染まり、爆音は京都、大阪まで響いたと言います。

本市では、この2回目の爆発事故から50年後に当たる平成元年(1989)年に、3月1日を「平和の日」と決めました。

今は閑静なたたずまいを見せるこの地。悲惨な歴史を振り返ることはあっても、繰り返すことはあってはなりません。

^{*1} 陸軍の報告書では94人。これ以外に朝鮮人と思われる1人を含む2人の死者名を記した帳簿もある。